



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成28年10月28日

校長 福田 俊彦

「ふれあい月間」

校長 福田 俊彦

校庭の東側に並ぶみかんが色づき始めました。校舎に掲げられている「ありがとうをとどけます」の言葉が秋空に映えて見える頃となりました。

10月2日の運動会には、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様にご臨席を賜りました。心より御礼を申し上げます。運動会への取組を通して一人一人の子供は、最後までがんばること、精一杯力を発揮すること、友達と支え合うこと、励まし合う心地よさに触れたことなど、多くの学びを身に付けました。この学びは、子供たちが学校生活をよりよいものに創り上げていく原動力になることを期待しています。

さて、11月は6月に続き、本年度2回目の「ふれあい月間」です。人権尊重教育推進校である南町小学校では、「自分の大切さととともに、他の人の大切さを認めることができる子供を育てる」ことをめざし、人との関わりの場を大切に考えています。学校、学級には、多様な関わりがあります。学級や学年の仲間との関わり。他学年の仲間との関わり。地域の方々との関わり。これらの関わりから子供は、多様な経験を通して、学びを広げ、深めていきます。そのことを子供が自らの成長に関わらせていくようにすることが学校の役割と捉えています。

ある学級の子供たちに聞きました。友達と関わりながら活動することで、どのようなことを学びましたか。

「みんなと楽しく仲良く過ごす力がつきました。」

「いろいろな人がいれば、いろいろなことができることが分かりました。」

「困っていたら協力して助け合うことが分かりました。」

「みんなが喜んでくれるものを考える力がつきました。」

これは、どの学級にもある係活動・当番活動について聞いたものです。多くの子供が、仲間との関わりを通して、互いを認め合うことの大切さに気が付いています。この気付きは、短期間で学べることではありません。そこには、一日一日の積み重ねがあります。担任が、子供相互に互いのよさを発見できるようにする場を設けたこと、その発見を大切に子供に返していったこと、新たな発見を賞賛したことなど、子供の成長を促す指導があったからと考えます。

11月のふれあい月間では、子供の活動を受けとめ、具体的に認めながら、仲間のよさ、自分のがんばりに気付けるよう各学年での取組を進めていきます。